### 関連情報は協会のホームページから



https://nbafa.or.jp/ sustainable/outline. html









ご意見、お問い合わせは yasashii@nbafa.or.jpまで

(一社)全国肉用牛振興基金協会では、JRAの支援を受 けて、環境にやさしい、牛にやさしい持続可能な肉用牛 生産に関する情報を調査発信する事業をはじめました。

肉用牛生産は、良質な牛肉の供給に加え、人が食用に できない資源を飼料として利用し、農村の維持、活性化 にも貢献している重要な産業です。

協会では、消費者の方々にも応援いただける肉用牛生 産をサポートします

#### 一般社団法人 全国肉用牛振興基金協会

〒113-0033東京都文京区本郷1-34-3 後楽園SAJビル6F

TEL: 03-5801-0772 FAX: 03-5801-0774

R4.9

持続的肉用牛生産関連情報発信事業

# 環境にやさしい、牛にやさしい 持続可能な肉用牛生産



#### SDGsに何が書いてある?

#### SUSTAINABLE GALS































SDG s (エスディージーズ) は2015年に国連で採択さ れた持続可能な開発目標

17の目標が示されていて、飢餓をゼロにする (持続可能な農業の促進)、つくる責任つかう責任 (持続可能な生産と消費のパターンの確保)、気候 変動に具体的な対策を、といった農業生産にも直接 関連する目標も掲げられています。

#### みどりの食料システム戦略って聞いたけど

SDG s やカーボンニュートラルの実現など環境を 重視する動きが加速する中、令和3年5月に、農林水 産省が示した戦略です。生産力向上と持続性の両立 をイノベーション(革新的技術、生産体系の導入) で実現するとしています。

この中で、農業の現場が2050年までに目指すもの として次の目標が掲げられています

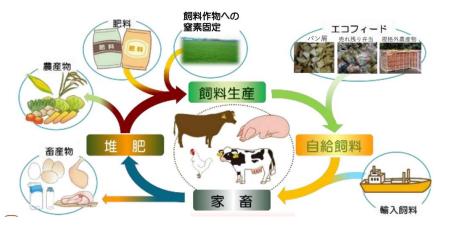
- CO。ゼロエミッション化(実質CO。排出ゼロ)
- 化学農薬使用量50%低減
- 化学肥料の使用量30%低減
- 有機農業取組面積割合25%



## 肉用牛生産者は何する? 今求められていること

将来にわたって美味しい国産牛肉を届けること、その ために生産者がずっと牛を飼っていくことができる生産 現場を考えてくことが大切です。

牛を健康に飼うこと、地域の資源を飼料に利用するこ と、排泄物をきちんと処理することはすべて資源循環の サイクルをうまく回して環境負荷を軽減することにつな がっています。



持続的な畜産物生産の在り方については、農林水産省 でも検討が進められ、令和3年6月の中間とりまとめで は、次のような取組みが示されています。

- 1 家畜の生産に係る環境負荷軽減等の展開 (家畜改良、飼料給与、飼養管理、家畜衛生・防疫)
- 2. 耕種農家のニーズにあった良質堆肥の生産や堆肥 の広域 流通・資源循環の拡大
- 3 国産飼料の生産・利用及び飼料の適切な調達の推進
- 4. 有機畜産の取組
- 5 アニマルウエルフェアなどその他畜産物生産の持続 性に関する取組
- 6. 生産者の努力・消費者の理解醸成

新たな技術も取り入れながら一歩ずつ